

## 聖木曜日（主の晩餐の夕べ）の説教

金 大烈 神父 2011年5月3日（木）

《イエス様と出会うために -自分自身の心の中を探しましょう-》

今日の福音(ヨハネ 14:6 - 14)を読んで、二つのことを考えました。

一つは、フィリポがイエス様に「御父をお示してください。」とお願いしたことについてです。それを聞いたイエス様は、「既にあなたは御父を見ている。こんなに長い間私を見ていたのだから、御父も見ていたことになる。」と答えます。実際には、フィリポは、イエス様とは長い時間を一緒に過ごしましたが、御父の顔を見たことはありません。ですから、このような質問をするのは当たり前かもしれません。

私たちとイエス様の関係も同じように考えられると思います。私たちは、イエス様に会ったことはありません。だから、手を合わせて「イエス様のことを体験できるようにしてください。」とお願いします。しかし、今日のイエス様の言葉から考えてみれば、長い間、いろいろな言葉やイエス様の教えを見て、実践してきたのならば、ある意味では、私たちは既にイエス様に出会った、ということになるのではないのでしょうか。

もちろん、間違えることもあります。間違えて幻のようなものをイエス様のみ心だと思ってしまう場合も結構あります。しかし、今日の福音でフィリポがイエス様から聞いた内容を考えてみますと、私たちも、イエス様によって母の胎内に宿り、この命をいただき、この世の中で生きてきたことを認めなければならないのでしょうか。いつもイエス様が一緒にいてくださったことを意識しなければならないのでしょうか。

たとえば、今祭壇で侍者をしている二人の方ですが、彼らは3年前に洗礼を受けました。昨日一緒に話しをしていて、「今まで生きてきた人生のほとんどが、洗礼の前だったので、今でも洗礼前の生き方の癖が出てしまう。」という反省が出ました。その洗礼前の時間も、ある意味では自分の力で生きてきたわけではありません。そして、ここまで自分で足を運んで来たように思うかもしれませんが、それも、必然的な導きによってこの太田教会と出会い、洗礼を受けるまでにたどり着いたのです。そして今は、誰でも上げられるわけではない祭壇に上がり、司祭の祭儀を手伝う侍者になっています。

そういうことを振り返ってみますと、イエス様と出会うためには、何よりも自分のことをはっきり、正しく振り返ってみることが必要ではないかと思います。ですから皆様、これからも神様、イエス様についてお聞きしたいことがあったら、まずご自分の心の中を探してみましょう。そうしたら必ず答えてくださるのではないかと思います。

二番目に考えたのは、「私の名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。」という力強い言葉です。私たちは、いろいろなことで自信を失う場合が結構あります。その時、この言葉だけでも本当に強く胸に刻めていれば、支える力の一つになると信じることができれば、それ以外のことは全て何とか上手く出来るのではないかと思います。

ありがとうございました。